

令和3年度 学校評価 学校関係者評価書

| | |
|-----|------------|
| 学校名 | 三木市立東吉川小学校 |
|-----|------------|

1 学校教育目標

| | |
|-----------|---|
| (1)学校教育目標 | 未来夢みて 共に学び続ける 元気な子の育成 (校訓: 考える子 思いやる子 元気な子) |
| (2)目指す児童像 | 心豊かに主体的に行動する児童 |
| (3)目指す教師像 | 子どもや学校・地域を愛し、子どもと共に歩む、家庭や地域から信頼される教師 豊かな発想を持ち、常に自己研鑽に努める教師 教師としての使命感を持ち、強い情熱を持って教育に臨む教師 子どもとの心のふれあいを深め、内面を理解する人権尊重の精神をもつ教師 |

2 本年度の重点目標

| | |
|---|---|
| (1)職員研修の充実を図り、教師としての力量を向上させることで、児童の思考を深める授業を創造する。 | (4) 東吉川小学校の最終年度の一つ一つの活動を大切に、思い出深い一年になるように取り組んでいく。 |
| (2)学ぶ楽しさ、かかわる楽しさを仲間と共有できる学校風土を醸成する。 | 閉校に向けた取組をPTAや地域とともに進めていく。 |
| (3)保護者・地域指導者・関係機関等と連携して、ふるさとを愛し、誇りに思う人づくりを進める。 | (5) 令和4年度の統合に向け、吉川小学校との交流を図る。 |

3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない】

| 評価の観点 | 評価項目(取組内容) | 取組(達成)の状況 | 評価 | 改善の方策 |
|-----------|---|---|----|---|
| 学習指導 | <p>●確かな学力を育成する 学習意欲の向上や学習習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の思考を深めるための授業づくりの推進と児童が自ら進んで学びに向かう力の育成 タブレット等を活用した個別最適な学びによる基礎学力の向上 学校生活全体を通じた言語活動の推進 家庭と連携した読書習慣の確立を図る取組の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 学習課題に主体的に取り組めるよう、単元の設定を工夫したり、発問や細かい言葉がけを意識したりすることにより、意見交流を促すとともに、学ぶ意欲が高まる授業づくりを進めた。 ワークシート・プリントやタブレット等を活用するとともに、既習内容もふり返りながら基礎基本の定着を図り、発展学習につなげた。 学年ごとに話す・聞くときの目標を毎月設定したり、感じたことや学んだことをふり返ったりすることで、個々の思考を深めることができた。 読書ファイルや親子読書の取組の継続と委員会活動や図書館と連携した取組を進め、貸し出し冊数が増加した。 | B | <ul style="list-style-type: none"> めざす子どもの姿をより具体的に意識するとともに、学習のふり返りや評価を活かし、児童が自ら進んで学びに向かう力を育成する。 タブレットやホワイトボードの活用等、新しい生活様式に応じた交流の方法を工夫することで、対話力を高める。 カリキュラムの改善やタブレット等の効果的な活用により、より細かな個に応じた指導と協働的な学びを進める。 読書習慣がさらに定着するように、読書の取組の継続、変化のある活動、家庭での読書推進の工夫を継続していく。 |
| 道徳・人権教育 | <p>●自他の生命を尊重する道徳的実践力や豊かな人権感覚の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別の教科道徳の年間カリキュラムの実施と改善 兵庫版道徳教育副読本等を活用した親子話し合い活動の推進 人の生き方に学ぶとともに、自尊感情や人権感覚を養う活動の充実 学校と家庭が連携しながら、自分や他者を大切に作る仲間づくりの推進 | <ul style="list-style-type: none"> 年間カリキュラムを見直し、特別の教科道徳の教科書やノートを活用した授業を行った。 家庭でも兵庫版道徳教育副読本を活用し、親子で話し合う機会を設け、話し合うことで、児童の心がより豊かになった。 コロナ禍で体験・交流活動に制限がある中、工夫をしながら地域の方々やこども園との活動を継続し、様々な人と関わる「楽しさ」「喜び」を味わわせ、温かい人間関係づくりに努め、仲良く人と関わる事ができた。 スマイル班(異年齢集団)活動・ぼっかぼか週間(人権集会・人権の花「良いところ見つけ」交流・親子ふれあい道徳授業)等を通して、自分や他者を大切に作る仲間づくりに努め、児童の友達を大切に作る気持ちが高まった。 | A | <ul style="list-style-type: none"> カリキュラムの見直しや授業づくりの改善を継続するとともに、学校全体の活動を通して道徳性を養うための研修を深めていく。 学校と家庭が連携をより深めて親子話し合い活動を充実させていけるよう、兵庫版道徳教育副読本や道徳の教科書の活用等を継続していく。 温かい人間関係づくりをめざした体験・交流活動となるよう工夫するとともに、事前・事後の指導を充実させる。 新しい人間関係に気を配り、様々な活動を活かした仲間づくりを推進していく。 |
| 生徒指導 | <p>●自己肯定感をもち、自分の居場所が実感できる支援体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ、問題行動、不登校の未然防止や早期発見・早期対応に向けた実態把握や児童理解の推進 あいさつの意識づけと生活リズムを見直す指導の工夫 児童・保護者、担任、スクールカウンセラー等が連携した体制づくり | <ul style="list-style-type: none"> 毎学期いじめに特化した生活アンケートを実施し、実態把握後、児童との面談の機会を持ち、いじめの未然防止や児童理解に努め、よりよい人間関係を作ることができた。 気持ちの良い挨拶について取り上げ、全校で共有する機会を持つことで、挨拶をやる意識付けを行ってきた。校外でも進んで挨拶できるよう指導に努めた。 生活リズムカードの内容を生活習慣に特化させ、生活リズムの改善を図った。年間を通して掲示し、保護者とも連携しながら取り組んだ。 校内での定期的かつ日常的な児童の情報交換に加え、保護者・関係機関とも連携を密にし、問題行動の早期発見・早期対応に努めた。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 学校いじめ防止基本方針を見直し、今後も職員一丸となり、いじめ未然防止・早期発見に向けた取組を進める。 校内、校外問わず、進んで気持ちの良い挨拶ができるように、家庭や地域の協力を得ながら指導を継続していく。 規則正しい生活リズム、生活習慣が身につくよう、引き続き家庭・地域と連携して取り組む。 今後も日常的な児童の情報交換を大切に、児童理解を深めるとともに、生活アンケート等を効果的に活用し、個々の実態把握のもと、適切な支援体制を推進していく。 |
| 特別支援教育 | <p>●一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別な支援が必要な児童についての実態把握と適切な指導、必要な支援のあり方の共有 保護者や関係機関等との切れ目のない連携を図った支援体制の推進 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育に関する教職員研修のさらなる充実 交流学习やユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 支援の必要な児童について、「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」をもとに、個々の児童の課題や教育的ニーズについて、全教職員で共通理解を図った。 就学前から中学につながるように、校内外において定期的に児童の情報交換を行い、効果的な支援や合理的配慮について話し合った。 連絡帳等を通して情報交換を行ったり、定期的に懇談を行ったりして、保護者との連絡を密にした。本人の願いも聞きながら個に応じた支援を行ったので、意欲的に学習や活動に取り組む姿勢が見られた。 スクールカウンセラー、学校生活支援教員やソーシャルワーカー等、関係機関と連携し、効果的な支援や配慮について助言を受け、日常的な支援につなげた。 計画的に異学年との交流学习を実施したことで、支援児童への理解が深まった。 ユニバーサルデザインの視点を大切に授業の推進に努めたことで、児童は「学習がわかる、できる、楽しい」を実感できた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 支援児童の情報を引き継ぎ、適切な指導・必要な支援の在り方について共通理解を深め、切れ目のない支援体制を充実させる。 特別支援コーディネーターを中心に、校内委員会や校内研修会を定期的に開催する。 継続して関係機関、保護者と連携し、支援が必要な児童について、児童の願いも聞きながら、保護者との合意形成を図り、より効果的な支援の在り方を探る。 交流学习を行う機会をより多くもち、児童相互の理解を深める。 ユニバーサルデザインの視点到配慮した授業づくりのアイデアをさらに交流し合い、わかる、できる、楽しい授業づくりを行う。 |
| 家庭・地域との連携 | <p>●保護者、地域と連携した教育活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の自然・人材・文化・施設と学校とをつなぐ「ふるさと学習」の推進 家庭と連携した主体的な学習習慣や生活習慣の充実 PTAや人の目の垣根隊・地域住民と連携した学校・地域の教育環境づくりの推進 学校通信・学級通信やWeb ページ等の学校情報の積極的発信 | <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍において例年と同様の活動は難しい中、今しかできない、今だからできる工夫を考え地域の方の協力のもと「ふるさと学習」における活動の可能性を広げることに努めたことにより、ふるさとを好きだという気持ちが育った。 内容の改善を図った生活リズムカードを通して、家庭と連携しながら生活習慣や学習習慣の定着に向けた支援を行うことで、よりよい生活習慣になるように意識して生活を送るようになった。 PTAや人の目の垣根隊と連携した登下校見守り等により、安全・安心の教育環境作りを努めた。 児童の学校生活の様子を伝えるため、通信やWeb ページの積極的な発信を行った。 | B | <ul style="list-style-type: none"> これまでの取組を見直し、地域の教育力を活かした新たな「ふるさと学習」の形を充実させる。 主体的な生活習慣や学習習慣がより身に付くよう、生活リズムカードを見直し、さらに効率よく活用する。 今後もよりよい教育環境づくりを推進していけるよう様々な機関との意見交換の場を大切にする。 今後も学校公開の場だけでなく、児童の学校生活の様子が見える通信やWeb ページの積極的な発信に努める。 |
| 教職員の資質向上 | <p>●強い情熱を持って教育に臨む教師</p> <ul style="list-style-type: none"> さらなる指導力向上を目指した積極的な授業研究と実践交流 専門性向上に向けた校内研修と伝達研修の充実 全教職員で取り組むワークライフバランスにつながる学校業務改善の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 研究授業及び模擬授業や日常の取組紹介や授業の工夫などを公開し、授業力を高めるための意見交流をし、教師の力量を上げることに努めた。 オンライン研修や外部研修会参加者による伝達研修等を活かし、専門性の向上に努めた。 全職員が業務改善を意識し取り組み、会議の削減や短縮、定時退勤日の実施を進めることができた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマを意識した授業づくりに取り組んでいけるように、積極的に授業公開を行っている。 体験活動等の制限がある中で授業の工夫や取組を実施しながら、特別の教科道徳・外国語(活動)・プログラミング教育等様々な研修機会を通して、一人一人の力量をさらに高めていく。 ゆとりやワーク・ライフ・バランスにつながる業務改善をさらに進めていく。 |

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 閉校準備と併行しながら子ども達の成長をみすえ、様々な方向から丁寧な取組が進められ、観点毎に、アンケート結果や子どもの姿に基づいた適切な評価がなされている。 新型コロナウイルス感染症対策による行事の延期等、臨機応変にも対応しながら適切な取組がなされ改善の方策も示されている。 取組(達成)状況に、具体例を盛り込むと、さらに理解が深まる。 東吉川小学校ならではの取組(ふるさと学習・地域連携・親子読書・書初め等)が吉川小学校においても継続されることをのぞむ。 |
|--|

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価

| |
|---|
| <p>【学習指導】</p> <p>○自己評価Bは適切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレットで取り組みなくなる課題の設定がタブレットに向かう原動力となっている。オンラインでの学びとノートに書くからこそのできる学びのバランスを大切に指導法に期待したい。 デジタル化の時代を迎えても、人間としての対話・表現・思考力という欠かせない力の育成に一層の取組をのぞむ。 読書習慣定着や読書量の多さは東吉川小学校が読書活動の推進に取り組んできたところが大きい。吉川小学校においても継続されたい。 |
| <p>【道徳・人権教育】</p> <p>○自己評価Aは適切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳・人権に関する児童の評価が相対的に高く、長年培われてきた教師の取り組みの賜物と考える。 ふれあい道徳やぼっかぼか週間等人権感覚を養える場の機会やスマイル班活動(異年齢交流)で育つ相手を思いやる心を育む機会を大切にしてきた東吉川小学校ならではの取組を今後も充実させたい。 |
| <p>【生徒指導】</p> <p>○自己評価Bは適切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎学期のいじめに特化したアンケートや学校いじめ防止基本方針の見直しなど、現状に即した取り組みを継続し、今後も児童の心に寄り添った対応を願いたい。 生活リズムについては改善がみられるが、あいさつについては引き続き家庭と連携して粘り強く取り組まれることを期待したい。 |
| <p>【特別支援教育】</p> <p>○自己評価Aは適切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教職員で共通理解を図るとともに、連絡帳や定期的な懇談により、切れ目のない支援を実施されており評価は高い。今後も関係機関との連携を密にし、本人の願いも聞きながら個に応じた支援を期待したい。 ユニバーサルデザインの視点到配慮した授業の向上に向けて、さらに充実した取組を願いたい。 |
| <p>【家庭・地域との連携】</p> <p>○自己評価Bは適切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全戸配布の学校通信、随時更新されるHP等により、学校の取組や方針、児童の様子等が大変わかりやすいと感じている。 生活リズムカードを通して家庭と連携しながら生活習慣や学習習慣の定着に向けた支援の効果が表れ、生活リズムが整っている児童が多い。今後も効率よく活用してもらいたい。 コロナ禍で大変厳しい状況の中、工夫しながら地域との連携を図っていくことについては、児童の評価も高く、ふるさとへの愛着の醸成に貢献している。今後とも充実を図り、継続されたい。 |
| <p>【教職員の資質向上】</p> <p>○自己評価Aは適切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業を積極的に公開することより、保護者や児童との距離が近くなり、教職員に対する理解が深まり、教育力の向上や児童・保護者の高評価につながっている。 終息の見込めないコロナ禍、そして閉校という一大事業に取り組みながら、学校業務を滞ることなく遂行された経験を活かし、さらなる改善を進め、一人一人の児童に寄り添いながら指導に努めていただきたい。 |

| | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|